

コロナ、地震、貧困…800年の時を越えて蘇る注目の災害文学！

超約版 方丈記

鴨 長明 [原作]
城島明彦 [訳]

養老孟司氏
帯推薦 いただきました！！

不安に苛まれる現代人のための最高の古典
この1冊がものの見方を変える！

「気力を失い何も手につかない時もある。それでも気に病むことはない」
無常を自らの力にして、天災と戦乱の世を生きた鴨長明(1155~1216)。
無常とはあきらめることなく、次に進むための生きる知恵でもある。
そのことに気づければ、何が起ころうと悩まず、焦らず、不安にならずにいられる。
そしてすべてを受け入れ、強くなる。それが未来を楽しむことにもつながる。
コロナ後を生き不安に苛まれる人に向けて、現代語抄訳スタイルで読み直す。

目次	第1部 天災と人災 「無常」ということ／天災と人災の果て 変事の危うさ、人間の恐ろしさ…
	第2部 無常を生きる 住みにくいこの世とともに／ 五畳あまりの小世界／執着心を手放す…
	巻末 原文(訳者校訂)／鴨長明年表

2022年
3月下旬
発売

★新書判並製・約160頁 【分野】日本文学／ビジネス古典／自己啓発

原作者略歴・鴨 長明(かも・ちようめい)

平安時代末期から鎌倉時代にかけての日本の歌人・随筆家。建暦2年(1212年)に成立した『方丈記』は和漢混濁文による文芸の祖、日本の三大随筆の一つとして名高い。

訳者略歴・城島明彦(じょうじま・あきひこ)

昭和21年三重県生まれ。早稲田大学政経学部卒業。東宝、ソニー勤務を経て、『けさらんぱさらん』でオール讀物新人賞を受賞し、作家となる。『ソニー燃ゆ』『ソニーを踏み台にした男たち』などのノンフィクションから『恐怖がたり42夜』『横浜幻想奇譚』などの小説、歴史上の人物検証『裏・義経本』や『現代語で読む野菊の墓』『世界の大富豪』成功の法則(プレジデント社)『広報がダメだから社長が謝罪会見をする!』(阪急コミュニケーションズ)など著書多数。「いつか読んでみたかった日本の名著」の現代語訳に『五輪書』(宮本武蔵・著)『吉田松陰「留魂録」』『養生訓』(貝原益軒・著)『石田梅岩「都鄙問答」』(いずれも致知出版社)がある。



担当編集者のコメント

コロナ禍で災害文学に関心が高まるなか、無常を自らの力として天災と戦乱の世を生き抜いた鴨長明の随筆が注目されています。800年の時空を超えて通じる心の在り方がちりばめられています。ビジネス古典のコーナーにもおすすめです。

お申込・お問い合わせ

株式会社 ウェッジ

TEL: 03-5280-0528 FAX: 101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1 NBF小川町ビルディング3F

FAX 03-5217-2661

好評発売中！

番線印	申込数	販売条件(注文)	超約版 方丈記
令和 年 月 日	冊		鴨 長明 [原作] / 城島明彦 [訳] ISBN 978-4-86310-249-1 C0095 ¥1000 +税 新書判並製・約160頁 ウェッジ 予価:本体1,000円+税